

きらめき人

## 集う、企業家たち

いぶし銀の技、日々進化中！

佐藤 功さん



昭和9年10月生まれ、満83歳の佐藤功さん。  
さんさん商店街内の「おしゃれ空間Lips」で作品が展示販売されています。

ISAO SATO

**志** 津川平磯の佐藤功さん。自宅の裏に倉庫兼作業部屋の工房を建て、いわゆる晴耕雨読の暮らしの中でモノづくりを楽しんでいる。「浜じい」というオリジナルブランドで竹、PPバンド、クラフトテープとそれぞれの材料を駆使した功さんの「いぶし銀の技」を垣間見ることができ

る。  
志津川町シルバー人材センターで竹細工サークル活動やPPバンドを使った細工を伝授。シルバー人材センターが解散した後も、入谷のさんさん館や晴谷驛で講座を設け、多くの住民に独自の技を惜しげもなく伝えてきた。彼のもとに集い、活動に参加することでひとつのコミュニティができあがり、今でも多くの人が趣味として制作活動を行っている。

竹細工を始めたきっかけを伺うと「私の母親の実家が、荒砥小学校の近くにあってただけど、養蚕をやっていた。忙しいときは子どもたちも駆り出されて、桑の葉採りや世話を泊まり込んで手伝っていたんだ。蚕を育てる竹製のかごにわらだに興味があった、かご屋さんから編み方を教えられた。でも、本格的に魚籠や籠を作り始めたのは社会人になってからだ」と懐かしむ功さん。現在は、山菜や磯物を採ったり畑作業したり…その合間に竹細工も楽しむ生活を送っている。

## 面

積の8割近くを森林が覆っている南三陸町。その杉を中心とした森林資源をもっと有効活用し、豊かな地域環境と新しい暮らしのスタイルを実現させようという取り組みが、平成30年4月に地域おこし協力隊員に着任し、移住したばかりの平山太一さん。木材を使って開発に挑戦するのが「モジュールハウス」だ。「モジュールハウスは、簡単に言うとプレハブ以上・建物未満の建築物。安価で作れ、簡単に移動できる手軽さを持っているが、プレハブほど仮設的なものではなく、不変的なもの」と話す。

「人も気軽に移動するし、あわせて家も移動しちゃうみたいな、住み慣れたプライベート空間をずっと使い続けられて、でも1カ所にずっと住み続けなくてもいい、そういう気軽に多様なライフスタイルがあってもいいと思う」と平山さんは考

える。  
さらに平山さんが狙うのは、エネルギー自給生活の提唱。「森林資源を活用したモジュールハウスで、自然エネルギーを活用した暮らしをする、そういう試みや考え方が、環境への配慮や意識につながると思っています」と、社会に大きなインパクトが起ることに期待が膨らむ。南三陸町から近い将来、新たなライフスタイルが確立するかもしれない。

TAICHI HIRAYAMA



埼玉県大宮市（現さいたま市）出身の29歳。広告関係の仕事に4年間勤務していた。

平山 太一さん

人も地球も健やかな暮らしを目指して